

は4月2日、25年の歴史を持つカッティングプロッタ「CGシリーズ」の最新モデル「CG-60SR III」「CG-100SR III」を発売した。

「CG-60SR」「CG-100SR II」の後継となる新製品は、スタンダード

に強化。より多くのメディアに対応した。また、従来比2倍の曲線カット速度により、曲線の多い複雑なカット作業での生産性を高めている。

カッティング精度向上を図る機能としては、面付けされた印刷物のトンボから

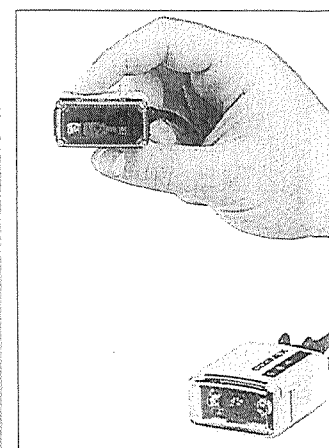
間トンボでの補正を行う「セグメント補正機能」も新たに備え、蛇行しやすい長尺の印刷物でも正確な輪郭カットを実現した。

このほか、事前設定したメールアドレスあてにカット終了やエラー発生などを通知し、監視に充てていた

時間の有効活用を図れる「イベントメール機能」などの新機能も搭載し、使い勝手を向上させた。

最大カット幅は、CG-60SR IIIが606mm、CG-100SR IIIが1070

mm。最大速度はいずれも秒速70mm、移動時は同100mm。価格はそれぞれ税込みで29万1900円、50万4000円。年間1万台の販売を見込んでいる。



「DataMan」シリーズ。上が「50」

同社では今後、シングルラインやラスタレーザ方式のスクリーンを適用している分野に対し、積極的なPR展開を図る方針。

問い合わせは、同社(0120-0005409)まで。

# 新技術 ウォッチング

セキユマーク・ジャパン(株) (東京都三鷹市下連雀、佐野源美社長、0422-265199)は昨年から、チネコ・クライムストップグループが展開する微細なニッケル粒を活用したセキユリティー技術「マイクロドット」の日本総代理店として展開。今後の国内本格販売に向け、展示会への出展や新規市場開拓など、さまざまな活動を積極化させている。

め、識別コードをエッチング加工する点。これらは40倍以上の高倍率顕微鏡で手軽に読み取れるため、近年登場しているスマホ用顕微鏡など身近なツールを使ってセキユリティー情報を読み取り、撮影した画像データをデータベースと照合することで、スピーディーかつ簡単に商品の真贋判定が行える。

世界市場で盗難防止に高い効果を発揮

同製品は、世界市場ですべてに各需要分野で導入

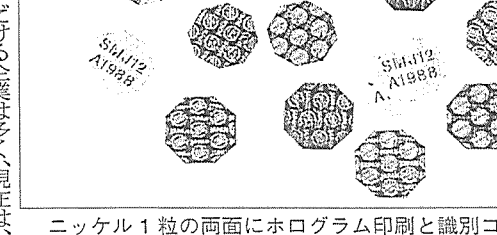
されておられ、特に盗難防止用途では、南アフリカで販売される新車にマイクロドット認証が義務付けられているほか、オーストラリアで販売する大手自動車メーカーでも採用され、盗難件数は採用前の60〜95%減少するなど、自動車関係

同商品は偽造防止用途においても、衣料品、医薬品、化粧品分野などの製品に活用することが可能。塗布方法は、スプレーやマイカーペンのほか、インキや接着剤、シリコンなどへの添加、紙やプラスチック、ガラス、金属、木材表面へ

と加工を施したマイクロドットの供給のみをビジネスとして想定していた」と話す。しかし、年初からのユーザー訪問を通しセキユリティーへのニーズを深める中で、「マイクロドットを各採用製品の形態や製造工程に応じた形で提供していかねばならない」と強く感じるようになった」と方向性の転換について語る。

スプレーやマイカーペン

前述のとおり、同製品はニッケル一粒ずつに表裏で異なる加工を施す。ホログラムパターンは、ユーザーごとにロゴや社名のほか、顔写真なども入れられるなど自由度はかなり高い。また、識別コードは企業コードや商品コードなど固有の



ニッケル1粒の両面にホログラム印刷と識別コード加工を施す

マイクロドットは、最小直径0.2μm、厚さ75nmの極小ニッケル粒に、ホログラム印刷とエッチング加工を施したセキユリティーツール。ユニークなのは、一つ一つの粒片面に、採用ユーザーや採用製品ごとに異なるオリジナルホログラムを印刷、もう片面にはより精密に真贋判定を行うた



10円玉の右下が「マイクロドット」

連での採用が増加している。同用途では、採用する場合には、抑止効果を高めるため、マイクロドットの採用を知らせるステッカーを車体に貼り、圧

の直接塗布など採用商品によつてさまざま。粘着ペーパーや織りネーム、紙タグで採用する場合は、インキにマイクロドットを添加して印刷することで、セキユリティー機能を持たせることができるようになる。

佐野社長は、「当初は、顧客ごとにオリジナル印刷

は輸入や空輸が難しいため、本格販売時には、個別にセキユリティー印刷と加工が施されたマイクロドットを輸入し、最終製品化は国内で行っていく方針。現在は、多くのユーザーニーズを知る活動を進めるとともに、パイロットユーザーらと、供給方法の模索や加

コードが振られ、データベース化される。「マイクロドットはRFIDのような個別の商品管理ツールではなく、識別コードを顕微鏡で見てデータと照合するアナログ的な識別方法。しかし、真贋判定は、製品に関わる多くの人が、簡単なコストもそれほどかけず

にできるのが大きな特徴」と佐野社長はその魅力を熱く語る。

従来になくユニークなセキユリティーツールが、柔軟な供給形態を可能にし、手軽に真贋判定する環境を確立することで、各需要分野におけるセキユリティーへのニーズを満たすものになる。佐野社長は、「おきたい段階での実運用につな

だけの企業は多く、現在は、さまざまな企業の技術者の方々とともに各種研究を進めているところ。当技術が世に出ることで、犯罪を防止し国内製品のブランド保護を高めることができると確信しており、協力を得た皆様に恩返しする意味でもより積極的に取り組む、早い段階での実運用につな